

# 愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2008年14週(4月1週 3/31~4/6)

(作成) 愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

## 今週の内容

### トピックス

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎  
麻しん

### 定点医療機関コメント

溶連菌感染症、感染性胃腸炎(ロタウイルス、病原大腸菌、カンピロバクター等)、インフルエンザ等

### 全数把握感染症発生状況

( )内は件数。結核(31)、腸管出血性大腸菌感染症(2)、アメーバ赤痢(2)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)、梅毒(1)、麻しん(6)

### 感染症だより(3月後半)

#### WHO疫学週報抄訳

2008年3月14日(83巻11号)

麻疹死亡減少と麻疹根絶の進捗; WHO 東地中海地域

2008年3月21日(83巻12号)

黄熱; パラグアイ

世界のポリオ; 2008年3月4日報告。07年国別報告数

### 定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

## トピックス

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点あたり患者報告数は1.74人、前週比0.9倍(340人 316人)です。春日井保健所管内では定点あたり患者報告数8.67人、前週比1.6倍(48人 78人)と警報レベル(4.0人以上)を継続しています。

### 麻しん(図)

2008年1週~15週診断分の全国の麻しん患者累計は5,460人、愛知県は76人(4月10日現在)です。麻しんを診断した場合は**できる限り24時間以内に保健所へ報告**をお願いします。

### 【参考ページ】

麻しん患者調査事業における麻しん患者発生報告状況(2008年)

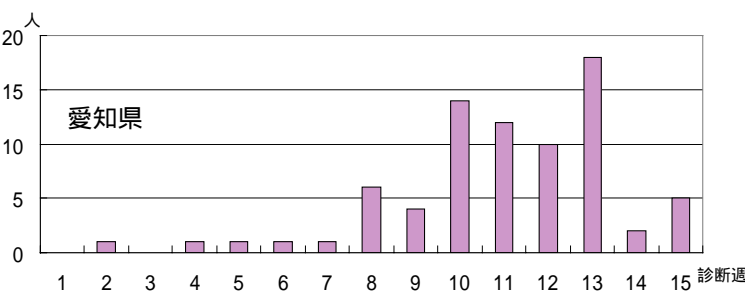
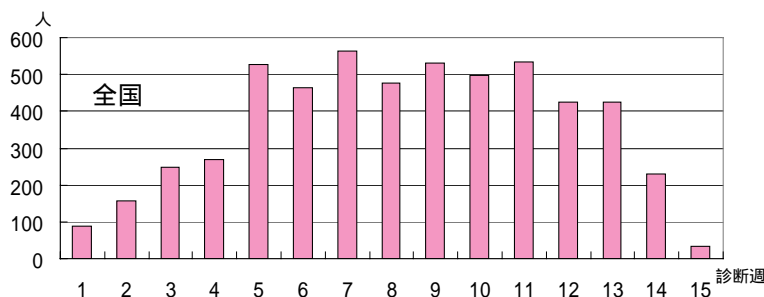


図 麻しん患者発生状況

[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl\\_3.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl_3.html)

## 定点医療機関コメント（名古屋市除く）

### 尾張西部地区

インフルエンザ 10名(A型9名、B型1名)

【一宮市 一宮市立市民病院】

溶連菌感染症が目立ちます。母親の症例2例あり。

【一宮市 あさのこどもクリニック】

ロタウイルス感染症 9名

【一宮市 ささい小児科】

病原性大腸菌O1 4歳女1名

【一宮市 城後小児科】

インフルエンザA型1名

【稲沢市 稲沢市民病院】

先週はインフルエンザ認められませんでした。

溶連菌感染症、感染性胃腸炎ともに少なくなりました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

水痘、溶連菌感染症が多発しています。

インフルエンザは2例のみ。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

インフルエンザが減ったため溶連菌、水痘が目立つようになりました。

依然アデノウイルスもあります。

【犬山市 武内医院】

ロタウイルス胃腸炎が多発しています。家族内感染もあり又入院例もあります。

【春日町 丹羽医院】

インフルエンザA型1名

【津島市 医療法人参育会加藤医院】

### 尾張東部地区

溶連菌感染症、多くみられます。

B型インフルエンザ5名は家庭内感染です。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

感染性胃腸炎、溶連菌感染症が多くみられます。

インフルエンザはA型1名、B型1名でした。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザ感染症激減しました。

【春日井市 春日井市民病院】

溶連菌感染症増加

感染性胃腸炎続発

アデノウイルス感染症少々

インフルエンザ減少

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

感染性胃腸炎流行中

【小牧市 小牧市民病院】

ロタウイルス感染が目立ちます。

インフルエンザ6名はすべてA型です。

【小牧市 志水こどもクリニック】

溶連菌が相変わらず多いです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

マイコプラズマ肺炎(3例)

カンピロバクター肺炎(3例)

ロタ腸炎(3例)

【美浜町 厚生連知多厚生病院】

インフルエンザA 1例

42歳女性百日咳 流行株320倍

【半田市 医療法人林医院】

ロタウイルス 4名

インフルエンザA型 3名

病原大腸菌O1(+) VT(-): 5歳男

病原大腸菌O1(+) VT(-): 15歳女

カンピロバクター: 7歳女

【大府市 まえはらこどもクリニック】

インフルエンザは0でした。

ロタウイルス陽性12名(9か月~5歳)

カンピロバクター 1名

病原大腸菌O8 1名

咽頭結膜熱 1名は目脂にてアデノ検出

【東海市 もしもしこどもクリニック】

扁桃炎が大人に数名ありました。

【東海市 こいで内科医院】

---

西三河地区

---

StrepA (+) 7名  
ロタ腸炎 7名  
アデノ腸炎 2名  
*E.coli*(O1) 1名 10歳男  
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】  
インフルエンザA型 5名  
【豊田市 田中小児科医院】  
インフルエンザA型 7名  
インフルエンザB型 1名  
インフルエンザA型、B型 1名  
ロタウイルス 9名  
【豊田市 すくすくこどもクリニック】  
インフルエンザA型 1名  
【豊田市 足助病院】  
アデノウイルス感染症 5歳女、6歳男  
5歳男 A型インフルエンザ1名のみでした。  
【岡崎市 花田こどもクリニック】  
溶連菌感染症、感染性腸炎散見されます。  
その他特記すべきことはありません。  
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】  
病原性大腸菌O74(+ )VT(- )カン  
ピロバクター 5歳男  
インフルエンザB型 5か月女  
アデノ(+ ) 2歳男、4歳女、2歳女、5  
歳男  
【岡崎市 にいのみ小児科】

B型インフルエンザ 1名  
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】  
マイコ気管支炎 2例  
ロタウイルス腸炎(1歳)1例  
【刈谷市 田和小児科医院】  
感染性胃腸炎、水痘、下気道感染症目立ち  
ます。  
【碧南市 永井小児クリニック】  
ロタウイルス感染性胃腸炎 多数  
インフルエンザA 2名  
【知立市 宮谷クリニック】  
インフルエンザはA型。  
【安城市 鳥居医院】  
感染性胃腸炎が多いです。  
【三好町 三好町民病院】  
感染性胃腸炎が増加。  
溶連菌感染症 3名。  
【西尾市 やすい小児科】  
1歳女 病原性大腸菌O1(+ )  
【西尾市 山岸クリニック】  
病原性大腸菌 2歳女O153VT(- ) 2歳  
男O1VT(- )  
【幸田町 とみた小児科】

---

東三河地区

---

ロタウイルス性腸炎 1名  
【豊橋市 マミーローズクリニック】  
ロタウイルス胃腸炎が増えています。  
2歳男 アデノ扁桃炎  
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

インフルエンザA(+ )です。  
【豊川市 豊川市民病院】  
*E.coli* O1 女7か月  
*E.coli* O125 女2歳  
カンピロバクター 男5歳  
【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）4月9日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun071228.pdf>)

結核（二類感染症）

報告保健所	14週報告数			2008年累計(1～14週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	11	2	2	215	67	17
豊田市				23	7	3
豊橋市	2		1	18	8	4
岡崎市	2	1		20	13	1
一宮	3	1		26	9	
瀬戸				44	23	1
半田				11	3	2
春日井	5	2		26	8	
豊川	1	1		5	2	
津島	1	1		6	2	
西尾				16	11	1
江南	3			20	6	1
新城				2	1	
知多	1			30	6	8
師勝				4		
衣浦東部	2	1		27	4	7
合計	31	9	3	493	170	45

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	半田	29	男	- / -	3 / 27	3 / 31	無症状病原体保有者 O157、VT1(+)・VT2(+)
2	春日井	32	男	3 / 28	3 / 29	4 / 2	O157、VT1(+)・VT2(+)

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	54	男	腸管外アメーバ症	性的接触	国内
2	名古屋市	54	男	腸管アメーバ症	経口感染	国内

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染経路	推定感染地域
1	津島	37	女	不明	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	24	男	早期顕症	性的接触	国内

麻しん（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	16歳	男	無	国内
2	名古屋市	31歳	男	不明	国内
3	豊田市	24歳	女	不明	国内
4	豊田市	1歳1か月	男	無	国内
5	春日井	37歳	女	不明	国内
6	春日井	7歳	女	無	国内

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

昨夜からの雨で満開の桜が一面に散っている道をお姉さん達と1年生が登校して行きます。大きな傘と雨靴。あれであと何年かすると授業中にオシャベリする、携帯をのぞく、ボトルからラッパ飲みをする、生意気な大学生になるんだから。いつも貴重な情報を有難うございます。3月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：城北病院渡辺先生からは細菌性髄膜炎が最近2例続けて入院、発熱と嘔吐が主な急性胃腸炎が多く注意が必要で、インフルエンザはほとんどなく、時にアデノウイルス陽性者あり、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザはほとんどいなくなり、ロタウイルス腸炎の入院が目立つ、三菱病院入山先生からはA群溶連菌咽頭炎6名（入院1名）、感染性胃腸炎5名（うちロタウイルス腸炎3名、カンピロバクター2名）、気管支炎～肺炎（マイコ含む）3名入院、中京病院柴田先生からは外来ではインフルエンザも減少し特に目立つものはなく、病棟ではロタウイルス性腸炎の入院が目立ち、RSウイルス感染症も時々入院、大同病院水野先生からはインフルエンザはほぼなくなり、ロタウイルスによる胃腸炎が多く脱水による入院が目立ち、RSウイルスによる気管支炎の入院目立つとのお手紙でした。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎と感染性胃腸炎（カンピロバクター腸炎4例を含む）がそれぞれ散発中で手足口病1例、A型インフルエンザの2回目のピークも過ぎほぼ終息してきた。2回A型インフルエンザに罹患した人は14名ぐらいだった、津島市民病院高田先生からはロタウイルス陽性例、マイコプラズマ陽性者が目立ち、入院も多く、4月に入りインフルエンザA陽性例が2例あり、入院例でインフルエンザ桿菌陽性者が目立つ、常滑市民病院高橋先生からは外来では胃腸炎が多く、ムンプス少数あり、入院では肺炎とロタウイルス感染症が目立つとのお手紙でした。

3. 三河地区：トヨタ記念病院木戸先生からは感染症の患児は減り、インフルエンザBが2～3名あり、肺炎による入院がまだあり、豊田厚生病院梶田先生からは麻疹3名（研修医1名、看護師1名、1歳児1名）、ロタウイルス性腸炎が多く入院が目立ち（後半は減った）、インフルエンザはだいぶ減り、A群溶連菌感染症と水痘がやや多くなっている、刈谷市田和先生からはインフルエンザ7例（A型6例、B型1例）、マイコプラズマ気管支炎15例、ロタウイルス腸炎1歳児1例、2歳児3例、碧南市永井先生からは感染性胃腸炎と下気道感染が目立つ、豊橋市からはインフルエンザA型散見、ロタウイルス腸炎、カンピロバクター腸炎、ウイルス性気管支炎が目立つ（市内長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2008 年 3 月 14 日（83 巻 11 号）<http://www.who.int/wer/2008/wer8311/en/index.html>

麻疹死亡減少と麻疹根絶の進捗。WHO 東地中海地域。97 年 - 07 年。

（1）緒言：1997 年、WHO 東地中海地域参加 22 カ国は 2010 年までには同地域における麻疹を根絶すると決議した。05 年、世界保健会議（World Health Assembly）は 2010 年までに麻疹死亡を 00 年との比で 90%減少を目標と設定した。97 年に WHO 東地中海地域事務所は目標達成のため 4 段階の長期作戦を発表：（ ）各国は定期接種業務で麻疹ワクチン初回接種（Measles containing vaccine ,MCV1）の接種率を 90%以上に達成、維持すること。（ ）2 回目の接種（MCV 2）の接種率を定期接種もしくは定期外補充予防接種活動（Supplementary immunization Activities , SIAs）で 90%以上達成する。（ ）麻疹症例の症例ごとのサーベイランス確立と、検査室診断を全ての臨床診断例に実施。（ ）ビタミン A 補給を含む適切な治療。本報は 97 - 07 年間の東地中海地域における進捗状況の概略である。

（2）定期接種：22 カ国中 12 カ国(55%)が初回接種（MCV1）を生後 9 ヶ月で、10 カ国（45%）が 10 - 15 ヶ月で接種。16 カ国（22 カ国の 73%、同地域人口の 53%）が 2 回接種を実施（国別一覧表あり）。初回と 2 回目の接種率は該当年齢小児数と接種実施小児数から毎年算定。さらに WHO とユニセフは各国の MCV1 接種率を毎年の各国の報告とサーベイランスの結果から算定している。東地中海地域全体としては、MCV1 推定接種率は 1990 年の 67%が 06 年には 83%に増加（年毎の麻疹報告数と MCV1 接種率のグラフあり）。殆どの国が接種率は上昇ないし安定している(国別、年別の一覧表あり)。06 年には 15 カ国で全国 MCV1 接種率が 90%以上であったが 7 カ国では 90%未満であった。2 回接種を実施している 16 カ国では 8 カ国で 06 年の MCV 2 接種率は 90%以上であった。

（3）SIAs：94 - 07 年、地域全体で 1 億 8,800 万の小児が SIAs で接種された。モロッコとパキスタン以外の殆どの国で緊急 SIAs 実施、この両国も 08 年に履行予定(国別、年別一覧表あり)。クエート、サウジアラビア、シリアでは追加 SIAs の遅れから麻疹の大流行が発生し緊急 SIAs を反復、エジプトとレバノンでは緊急 SIAs 再接種計画中でアフガニスタンとイラクでは追加 SIAs 履行、スーダンでも予定されている。

（4）サーベイランス活動：06 年以降ソマリアを除く各国で、症例に基づく(case-based)サーベイランスが検査室診断による確認の上で実施されている(モロッコとパキスタンは定点のみ)。この case-based サーベイランスシステムでは麻疹臨床診断例の少なくとも 80%が一定の個別報告書式にそって報告され、麻疹 IgM 抗体が酵素抗体法で確認されている。07 年には 21 国立検査室のうち 9 検査室の担当者が麻疹ウイルス分離培養法と PCR によるウイルス核酸検出法の訓練を受けている。03 - 07 年に検出された麻疹ウイルスの遺伝子型は D4 が最多、次いで B3ga 多かったがモロッコだけは C2 が主体であった。06 年同地域予防接種に関する助言委員会はサーベイランス監視基準としてサーベイランス精度として人口 10 万当り 2 例以上の麻疹患者報告があること、報告例の 60%以上について検査実施、80%以上の検体は 7 日以内に適切な条件下で検査室に搬入されること、80%以上の検査結果が 7 日以内に報告されることを提言、07 年には 22 カ国中 18 カ国(82%)からこれら基準を満たした報告が届き、月報としてまとめられている(各項目の詳細は略)。

（5）麻疹死亡と麻疹根絶の監視：麻疹ワクチン導入前、1980 年代以前の同地区の麻疹報告数は毎年 20 万名以上であった。その後ワクチン接種が強化され、1990 年の報告数は 6 万人(70%減)、流行発生間隔は 80 - 91 年には 2 - 4 年間隔だったのが 92 - 04 年には 6 年と延長した(グラフあり)。全体として患者数は 05 年が最低で人口 100 万あたり 29 例、06 年には 44 例と増加、07 年

には減少しているがデータは不完全である。06 - 07 年には定期接種率 95%以上、SAIs が普及しているにもかかわらずエジプト(2,315 例)、レバノン(1,344 例)、カタール(495 例)、サウジアラビア(4,215 例)、シリア(868 例)で発生が報告されている。麻疹死亡に関してはサーベイランスシステムが確立されていないので WHO は麻疹報告数、推定罹患死亡率、推定ワクチン接種率から麻疹死亡数を算定、00 年には 96,000 例、06 年には 23,000 例(76%減)が死亡したと推定している。

2008 年 3 月 21 日 (83 巻 12 号) <http://www.who.int/wer/2008/wer8312/en/index.html>

黄熱。パラグアイ。

パラグアイ保健福祉省は黄熱流行に襲われた地域で緊急集団接種キャンペーン展開中。150 万人以上が接種を受けた。最近の疫学的状況から同省は全てのパラグアイへの旅行者は出発前の黄熱ワクチン接種を勧告している。2 月 24 日、黄熱国際協力グループは 200 万人分のワクチン供給に同意。PAHO (WHO 南北アメリカ事務所) / WHO の専門家臨時チームがパラグアイ保健福祉省に臨時対応、リスクコミュニケーション、野外疫学調査、検査室診断、予防接種実施に関し技術協力を継続中。ワクチン副反応調査については以前アフリカや南米で効果的であったサーベイランスシステムが今回の南米の流行でも流行早期から実施されており、副反応報告は 07 年 3 月までで 36 例だけであり、パラグアイでは数例について検討中(他の地球規模の集団接種調査では黄熱ワクチン後の副反応はワクチンと無関係な偶発的なものという結果が得られている)。

世界のポリオ。急性弛緩性麻痺 (Acute Flaccid Paralysis AFP) サーベイランス。08 年 3 月 4 日報告。

07 年の AFP 患者報告数、15 歳以下小児人口 10 万当り AFP 報告数、AFP 患者からの適切な検査材料採取率、07 年と 06 年のポリオ患者数とそのうち野生株と確認された患者数の国別一覧表。07 年の野生株ポリオ患者数で目立つのはインド：ポリオ患者 866 名(うち野生株確認 866)、ナイジェリア：352(286)、コンゴ民主共和国：41(41)、パキスタン：32(32)、チャド：21(21)、アフガニスタン：17(17)、ミャンマー：15(11)、ニジェール：11(11)、ソマリア：8(8)、アンゴラ：8(8)、ネパール 5(5)。最新の 2 週毎のデータ：

[http://www.who.int/immunization\\_monitoring/en/diseases/poliomyelitis/case\\_count.cfm](http://www.who.int/immunization_monitoring/en/diseases/poliomyelitis/case_count.cfm)参照。

愛知県感染症情報

2008年14週(2008年3月30日～2008年4月6日)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ*	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																		
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	52	17	5	201	52	316	1,441	246	22	13	132	1	4	93	3	10	1	0	3	1
愛知県 総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	2	166	39	250	1,006	195	17	8	101	1	4	76	2	7	1	0	2	0
名古屋	70	70	11	15	5	3	35	13	66	435	51	5	5	31			17	1	3			1	1
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	12	2	23	48	4			5			9		1				
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1	3	9	128	15			6									
尾張中部	師勝	4	4	1	1		7		10	25	1						1		1				
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	15		16	54	13	1		7			9		1			1	
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	19	16	78	67	4	3		15		2	13			1			
	江南	6	6	1	2		10	1	13	41	29	4		13			8						
知多半島	半田	6	6	1	2	1	2	8	10	84	10		1	8	1		2						
	知多	7	7	2	2		5	1	9	79	9	1	4	4			8						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	5	1	26	32	18			12			4		1				
	衣浦東部	13	13	2	4	1	21	4	18	102	39	3	1	5			12						
	西尾	5	5	1	2	1			6	77	6			4			2						
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1			9	85	18		1	5		1	4		1				
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1	1	22	9	91	20		1	10			1		1				
	豊川	9	8	1	2	1	7	1	13	90	9	5		7		1	3	2	1				
東三河北部	新城	2	2			1	5		1	3												1	

\*鳥インフルエンザ及びインフルエンザ(H5N1)を除く



愛知県感染症情報

2008年14週(2008年3月30日～2008年4月6日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ*	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
計	2	166	39	250	1,006	195	17	8	101	1	4	76	2	7	1	0	2	0
～6ヶ月	2	1			18	3			1									
～12ヶ月		4	2	3	79	14	1	1	48									
0歳																		
1歳		15	4	18	209	30	2	2	49		2	1						
2歳		12	8	23	127	33	6		3		1	10	1					
3歳		17	7	23	86	30	4	2				5						
4歳		11	5	49	100	31	1	1			1	22						
5歳		11	7	24	63	20						13						
6歳		8	1	35	59	14	1	2				13						
7歳		6	2	22	24	7						3						
8歳		7	1	17	34	2						4						
9歳		4		10	22	6						1						
5歳～9歳																		
10歳～14歳		9	1	17	50	4	1					2						
15歳～19歳		3			15													
20歳～			1	9	120	1	1			1		2			1			
20歳～29歳		19											1	3				
30歳～39歳		18												2			1	
40歳～49歳		13																
50歳～59歳		1												1				
60歳～69歳		4												1			1	
70歳～																		
70歳～79歳		2																
80歳以上		1																

\*鳥インフルエンザ及びインフルエンザ(H5N1)を除く